



きんひが通信

令和元年11月29日

<第32号>

校長 平塚智康

子どもを勇気づける子育て（2）～就学時健診で話したこと～

【就学時健診で話したこと】パート2

5. 子育ての基本は「待つこと」「がまんすること」

子どもには子どもの時間があります。子どもの世界があります。なんでも大人に合わせようとしても、子どもはのびのびと成長していかないことがあります。

例えば、指示型のお母さんは、「土さわったらきたくないでしょ」と砂遊びに興味を示す子どもに言いやめさせる、子どもが転んでいたら、「大丈夫よ」とすぐ起こしてしまう……。指示型のお母さんは、子どもが言うことを聞くときは、指示しますが、そうでなくなると「あんたなんか知らない」というふうになりがちです。そうすると子どもはどうしていいか分からなくなってふてくされるか、ひきこもるかしてしまいます。指示型の子育ては、子どもが自分の力で判断する力、子どもが自分で生きていく力を育まないことにつながります。

私たちは子どものために何でもしてあげたいと思って子育てをしています。しかし、実際に子どものためだと思ってしていることの裏側には、親自身の自分ができなかったことへの後悔や劣等感が隠れていることがあります。子どもにとって本当は何が大切なのか、自分自身のことも合わせて振り返ってみることも大切です。

「待つこと」「がまんすること」は忍耐力がいりますが、親にそのように育てられた子どもは、きっと忍耐力のある大人に成長します。



6. 家庭は子どもにとって最もリラックスする場であること

普段、子どもにどんな声かけをしていますか？

「しなさい」「してはいけません」「どうして～するの」こんな言葉が自然と多くなっていませんか？子どもの緊張感が高くなってしまって家ではなかなかリラックスできなくなります。しっかりとしたしつけをしなくては、とっていてそれが子どもに緊張感を生んでしまうこともあるようです。

どうなるかというとその反動が学校で出ます。学校で気が緩むので、勉強も、運動もやる気が出なかったり、それでも愛情が不足しているので、友達と関わりたいけれど、その方法がわからないので

ちょっかいを出したり、つついたり、相手のいやがることをわざとしたりしてしまいます。また、気持ち荒れているので友達の何気ない言葉に切れてしまったり、家でたたかかれていれば学校でも友達を平気でたたくようになります。心が安定しないので目がきょろきょろしたり、四六時中そわそわしてゆっくり座ることができなかつたりします。

「早く～しなさい」・・・子どもの自己肯定感を育てない言葉です。ある調査では、1日40回ぐらい言っているという結果を聞きました。親も子どもも、ストレスが増します。だからといっておそいし、そう言わないと時間通り動けないし・・・という現実もあるので、「早く」の代わりに「はい」を入れてみるとか、そういう工夫もいいかなと思います。「早く～しなさい。」→「はい、～するよ。」というふうに。

子どもにとって、家庭は最もリラックスする場にしたいものです。家庭がリラックスできる場になれば、学校でいやなことがあっても、家庭でエネルギーを充電して、また明日がんばろう、という勇気が子どもたちに湧いてきます。

＜おわりに＞

子どもたちがまだ幼い頃、山中温泉の総湯に、家族で毎日通っていました。子どもたちが楽しそうに話す保育園や学校の話、総湯のへりに座ってじっくり聞いてやることが私の日課でした。夜ふとんの中で、絵本を読み聞かせているうちに、子どもたちといっしょに朝まで爆睡してしまうことも日常茶飯事でした。・・・子どもたちが大きくなって親の手を離れていくと、その頃のことが無性に愛おしくなる時があります。

子育てはとっても幸せなことだなあとつくづく感じます。みなさんにも、今しかできない子育てを、思う存分楽しんでいただきたいなあとと思います。それは、親になった者しか享受できない特権ですから・・・。

【参考文献】

- ・アドラー博士の「小学生に自信をつける30の知恵」（星 一郎）
- ・子育てハッピーアドバイス（明橋 大二）
- ・へこたれない子、心のつよい子になる育て方（PHPのびのび子育て編集部）

子育てに関する相談窓口 ～スクール・カウンセラー～

本校には、毎週金曜日の午前中、スクールカウンセラーの先生が来校されています。

心に悩みや不安を抱えた子どもたちが、いつでもカウンセラーの先生に話を聞いてもらうことができます。時には、担任が児童にカウンセリングを進めることもあります。

カウンセラーの先生には、保護者の方々の子育てに関する悩みや不安（お子さんの発達に関する事、親子関係の事、友達関係の事など）についても、お話を聞いていただけます。悩みや不安は、一人で抱えこんでいても、なかなか解決の糸口が見つからないことがあります。誰かに話を聞いてもらうだけで、気が楽になることもあります。

（もちろん、カウンセラーは秘密を厳守します。）

学級担任もお子さんに関するご相談をいつでもお受けいたしますが、相談窓口の選択肢の一つとして、スクールカウンセラーの存在もお知りおきください。

なお、スクールカウンセラーへの相談を希望される方は、担任まで遠慮なくお問い合わせください。